

学会録事

1. 日本藻類学会第 35 回大会（富山）報告

(1) 日本藻類学会第 35 回大会（富山）

上記大会を 2011 年 3 月 26 日（土）～ 28 日（月）に富山大学五福キャンパスで開催した。

大会 1 日目は、午後にワークショップ 1「藻類・藻類ウイルス・原生動物等の分離・培養法」（講義形式、講師：河地正伸氏、神谷光伸氏、山口晴代氏、外丸裕司氏、高尾祥丈氏、矢吹彬憲氏、高野義人氏、出村幹英氏）、および、公開講座「富山県民のための昆布学」（コンピーナー：藤田大介）を富山大学五福キャンパス共通教育棟で行った。また、編集委員会および評議員会を同共通教育棟にて行った。2 日目は、同共通教育棟において、口頭発表（2 会場）およびポスター発表（奇数番号）を行い、その後、日本藻類学会総会を行った。当初予定していた懇親会は、東日本大震災の被害状況を考慮し取りやめとした。3 日目は、口頭発表およびポスター発表（偶数番号）を行った。その後、藻類学ワークショップ 2「藻類採集観察会」（金沢大学環日本海域環境研究センター生物多様性部門臨海実験施設・のと海洋ふれあいセンター、28 日～ 30 日）を行った。

大会の開催にあたり、大会会長の渡邊信氏、中村省吾氏、荻田信二郎氏、富山大学大学院生および学生諸氏等、また、ワークショップ、公開講座をお世話してくださった方々等、多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。

(2) 編集委員会・評議員会

3 月 26 日（土）午後 3 時 30 分より富山大学五福キャンパス共通教育棟にて、英文誌および和文誌の合同編集委員会を開催した。

英文誌については、峯英文誌編集長から「Phycological

Research」の 2010 年度、2011 年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2010 年度は総頁数 311 頁、掲載論文数 34 編であったことが報告された。2011 年度については 59 巻 1 号に 10 編が掲載され、2 号に 8 編の掲載予定で、59 巻 3 号以降の受理論文数は 3 月 17 日現在 5 編であることが報告された。また、2009 年のインパクトファクターが 1.246 と 2008 年の 0.955 から上昇したことが報告された。掲載料の請求状況および 2011 年からの新編集体制について報告があった。編集方針、電子投稿システムの運用、掲載料・超過頁代金未払いの対応について審議が行われた。Wiley-Blackwell の柏村愛氏から 2010 年度の英文誌出版状況・成果等をまとめた年次報告書についての説明があった。

和文誌については寺田和文誌編集委員長より「藻類」58 巻および 59 巻の編集状況に関する報告があった。2010 年に発行された 58 巻には 3 編の原著論文や総説のほか、学会講演要旨や企画記事等が掲載され、総頁数は 196 頁であったことが報告された。59 巻の刊行計画（1 号増補を含む）、編集方針について説明があり、審議が行われた。

評議員会は編集委員会終了後、同会場にて午後 4 時 30 分より行われた。2011 年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。内容に関しては総会の項を参照されたい。

(3) 2011 年度総会

大会 2 日目（3 月 27 日）のポスター発表終了後、午後 5 時 40 分から共通教育棟 C21 において総会を行った。堀口会長、渡邊大会会長の挨拶の後、南雲保氏（日本歯科大学）を議長に選出し、議事に入った。

[報告事項]

・ 庶務関係

(1) 会員状況（2011 年 2 月 20 日現在）：名誉会員 5 名、普通会員 973 名（国内・一般 635 名、国内・学生 171 名、外国 167 名）、団体会員 50 名、賛助会員 10 名、「藻類」国内購読 9 件。

(2) 2010 年度事業報告： 1) 日本藻類学会第 34 回大会・評議員会・総会（筑波大学筑波キャンパス、2010 年 3 月 19 日～ 3 月 22 日）の開催、2) 和文誌「藻類」58 巻 1～3 号の発行、3) 英文誌「Phycological Research」58 巻 1～4 号の発行（1, 4, 7, 10 月発行）、4) 第 13 回日本藻類学会論文賞の授与（小池一彦氏、瀧下清貴氏）と第 14 回日本藻類学会論文賞の選考、5) 第 6 回日本藻類学会研究奨励賞の選考、授与（神川龍馬氏）と第 7 回日本藻類学会研究奨励賞の募集、6) 藻類学ワーク・ショップ I「藻類 30 億年の自然史」（2010 年 3 月 19 日、筑波大学筑波キャンパス）、および、ワークショップ II「藻類色素の HPLC 分析入門」（2010 年 3 月 21, 22 日、



堀口会長による総会挨拶

国立環境研究所環境生物保存棟)の開催, 7) 日本藻類学会会長選挙及び評議員選挙の実施, 8) 千葉県立中央博物館 企画展, 関連学術研究集会, 記念講演会の後援: 企画展「海藻, 35 億年の旅人」(2010 年 7 月 3 日～9 月 5 日, 千葉県立中央博物館), 関連学術研究集会「一宮部金吾生誕 150 周年記念 - 日本における藻類学は今!」(2010 年 7 月 17 日, 千葉県立中央博物館), 記念講演会「藻類 30 億年の自然史」(2010 年 8 月 8 日, 千葉県立中央博物館)

(3) Wiley-Blackwell 社との出版契約継続 (2011-2016 年) について

・会計関係

(1) 2011 年 2 月 20 日現在の 2010 年度会費納入率(雑誌送会員を対象)は, 普通会员(国内・一般) 97%, 普通会员(国内・学生) 90%, 普通会员(外国) 87%, 賛助会員 90%, 団体会員 58%であった。

(2) 2010 年度一般会計決算等, その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

・編集関係

(1) 2010 年度に発行した英文誌「Phycological Research」

58 巻 1-4 号は, 総頁数 311, 掲載論文数 34 編であった。

(2) 2010 年度に発行した和文誌「藻類」58 巻 1-3 号は, 総頁数 196 頁, 内訳は原著論文・総説 3 編, その他であった。

これらに関連した詳細については, 前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

【審議事項】

・会計関係

(1) 2010 年度一般会計決算報告および同監査報告(会計監事: 工藤利彦会員, 四ツ倉典滋会員)は表 1 の通り承認された。

(2) 2010 年度山田幸男博士記念事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表 2 の通り承認された。

(3) 2010 年度研究奨励賞事業基金特別会計の決算報告および同監査報告は表 3 の通り承認された。

(4) 2011 年度一般会計, 山田幸男博士記念事業基金特別会計, および研究奨励賞事業基金特別会計の予算は表 4, 表 5 および表 6 の通り承認された。

・庶務関係

(1) 2011 年度事業計画として以下の事項が承認された: 1)

表 1. 2010 年度一般会計決算 (2010.1.1 - 2010.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
会費	6,333,000	和文誌経費	1,882,386
普通 (国内・一般)	4,043,000	英文誌経費	6,717,300
普通 (国内・学生)	480,000	編集費	0
普通 (外国)	430,000	和文誌編集補助費	0
団体会員	960,000	英文誌編集補助費	0
賛助会員	420,000	庶務費	384,386
和文誌関係収入	1,308,449	事務用品費	57,753
定期購読	201,600	会議費	34,041
バックナンバー	54,500	通信印刷費	283,932
別刷・超過頁代	1,011,250	諸雑費	8,660
広告代	40,000	幹事旅費補助	1,000
版權還付金	1,099	大会補助費	120,000
英文誌関係収入	951,014	自然史学会連合分担金	20,000
超過頁代	506,000	分類学会連合分担金	10,000
掲載料	132,000		
版權還付金	313,014		
受取利息	1,759		
寄付金	163,600		
小計	8,757,822	小計	9,135,072
前年度繰越金	10,149,135	次年度繰越金	9,771,885
合計	18,906,957	合計	18,906,957

表 2. 2010 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算 (2010.1.1 - 2010.12.31)

収入 (円)			支出 (円)	
受取利息	普通預金	109	論文賞用雑費	0
	普通預金	4,524		
小計		4,633	小計	0
前年度繰越金		2,592,285	次年度繰越金	2,596,918
合計		2,596,918	合計	2,596,918

表 3. 2010 年度研究奨励賞事業特別基金会計決算 (2010.1.1 - 2010.12.31)

収入 (円)			支出 (円)	
受取利息	普通預金	76	奨励賞賞金	100,000
	定期預金	2,885		
小計		2,961	小計	100,000
前年度繰越金		1,706,503	次年度繰越金	1,609,464
合計		1,709,464	合計	1,709,464

日本藻類学会 2010 年度決算書に対し記名捺印する 2011 年 3 月 8 日
 2010 年度 会 長 堀口 健雄 印
 2010 年度 会計幹事 阿部 剛史 印
 決算書が適正であることを認める 2011 年 3 月 8 日
 2010 年度 会計監事 工藤 利彦 印
 2011 年 3 月 10 日
 2010 年度 会計監事 四ツ倉 典滋 印

日本藻類学会第 35 回大会・評議員会・総会（富山大学五福キャンパス，2011 年 3 月 26 日～3 月 28 日）の開催，2) 和文誌「藻類」59 巻 1 号，1 号増補，2 号，3 号の発行，3) 英文誌「Phycological Research」59 巻 1～4 号の発行（1,4,7,10 月発行），4) 第 14 回日本藻類学会論文賞の授与と第 15 回日本藻類学会論文賞の選考，5) 第 7 回日本藻類学会研究奨励賞の選考，授与と第 8 回日本藻類学会研究奨励賞の募集，6) 藻類学ワーク・ショップ I「藻類・藻類ウイルス・原生動物等の分離・培養法」（2011 年 3 月 26 日，富山大学五福キャンパス共通教育棟），および，ワークショップ II「藻類採集観察会」（2011 年 3 月 28, 29 日，金沢大学環日本海域環境研究センター生物多様性部門臨海実験施設・のと海洋ふれあいセンター）の開催，7) 第 14 回バイオテクノロジー学会大会（2011 年 5 月 28, 29 日，静岡県コンベンションアーツセンター）の協賛，8) 和文誌「藻類」バックナンバーの PDF 化，9) 学会ホームページの民間レンタルサーバーへの移行，10) 日本藻類学会創立 60 周年記念事業。

・その他

- (1) 2011～2012 年度の会計監事として，工藤利彦氏および四ツ倉典滋氏が承認された。
- (2) 日本藻類学会第 37 回大会（2013 年）の開催地を山梨大学（甲府）とすることが承認された。
- (3) 学生会員に関して以下の 2 点が承認された：1) 学生会員については，その年限りで退会する場合は，入会時または更新時にその旨を申告してもらう，2) 学生会員については，今後，会費が未納の場合，1 年間の猶予をとらず雑誌の送付を停止することとする。
- (4) 電子メールによる会員への連絡体制の整備に関して，会員更新の際に各会員に電子メールアドレスの使用についての承諾を得た上で電子メールによる連絡体制を作ることが承認された。
- (5) 東日本大震災により被災された会員への支援について，以下が承認された：事務局でニーズを集約する，評議員会を中心として対応する，必要に応じて会員に協力を要請する，日本藻類学会のホームページに概要を掲載する。

表 4. 2011 年度一般会計予算 (2011.1.1 - 2011.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
会費	5,971,800	和文誌経費	2,550,000
普通 (国内・一般)	3,769,200	英文誌経費	5,015,600
普通 (国内・学生)	479,750	編集費	300,000
普通 (外国)	472,850	英文誌編集補助費	200,000
団体会員	980,000	和文誌編集補助費	100,000
賛助会員	270,000	庶務費	238,000
和文誌関係収入	1,291,100	事務用品費	20,000
定期購読	120,000	会議費	30,000
バックナンバー	20,000	通信印刷費	180,000
別刷・超過頁代	1,030,000	諸雑費	8,000
広告代	120,000	幹事旅費補助	1,000
著作権許諾料金	1,100	大会補助費	120,000
英文誌関係収入	918,000	自然史学会連合分担金	20,000
超過頁代	506,000	分類学会連合分担金	10,000
掲載料	132,000	60 周年記念事業	400,000
版權還付金	280,000	和文誌 PDF 化作業費	100,000
受取利息	2,000	レンタルサーバー代	30,000
寄付金	500,000		
小計	8,682,900	小計	8,784,600
前年度繰越金	9,771,885	次年度繰越金	9,670,185
合計	18,454,785	合計	18,454,785

表 5. 2011 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算 (2011.1.1-2011.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	416	論文賞用雑費	28,200
前年度繰越金	2,596,918	次年度繰越金	2,569,134
合計	2,597,334	合計	2,597,334

表 6. 2011 年度研究奨励賞事業特別基金会計予算 (2011.1.1-2011.12.31)

収入 (円)		支出 (円)	
受取利息	258	奨励賞賞金	100,000
前年度繰越金	1,609,464	次年度繰越金	1,509,722
合計	1,609,722	合計	1,609,722

【日本藻類学会論文賞授与】

第14回日本藻類学会論文賞受賞者の発表および授与が行われた。これは2009年から2010年にかけて出版された英文誌「Phycological Research」56巻4号ならびに57巻1～4号の中から、規定に従い審査員の投票によって選ばれ、総会前日に開催された合同編集委員会および評議員会で了承されたものである。今回は下記の2編の論文が選ばれ、論文の著者に賞状および記念品が授与された。

Goro Tanifuji, Naoko T. Onodera and Yoshiaki Hara.
Nucleomorph genome diversity and its phylogenetic implications in cryptomonad algae.
Phycological Research 58 (3): 230–237 (2010).

Gregory N. Nishihara and Ryuta Terada.
Species richness of marine macrophytes is correlated to a wave exposure gradient.
Phycological Research 58 (4): 280–292 (2010).

【日本藻類学会研究奨励賞授与】

第7回日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものであり、推薦委員会で授賞候補者が選ばれた後、評議員会で了承されたものである。今回は平川泰久氏（カナダ・ブリティッシュコロンビア大学、クロラクニオン藻の葉緑体へのタンパク質輸送機構）が選ばれ、賞状および副賞（賞金10万円）が授与された。

日本藻類学会の東日本大震災への対応

学会員の皆様

このたびの大地震および津波災害においては多くの方が犠牲となりました。日本藻類学会として深い哀悼の意を表します。また、日本藻類学会会員を含む多くの方が被災されご不便な生活を強いられておられます。心よりお見舞い申し上げます。

日本藻類学会として、被災された会員の皆さまに対してどのような支援ができるのかについて、3月26日開催の評議員会、27日開催の総会で議論いたしました。その結果、まずは被災された方のニーズを的確に把握し、そのニーズに対して個々に対応していく体制を学会として整える必要があることが合意されました。

日本藻類学会では次のような対応をとることといたしました。

(1) ニーズの把握

- ・被災された方にとって必要な支援の内容を日本藻類学会事務局で集約します。
- ・ご自分がどのような支援が必要かをメール（sourui.aid@gmail.com）、ファックス（011-706-4851）等で学会事務局までご連絡ください。
- ・どのような小さな支援依頼でも構いません。遠慮無くお知らせください。

(2) ニーズへの対応

- ・寄せられたニーズに対して、どのような分野の方に支援をお願いするのが適切かについて、事務局と支援が

必要な分野に関わりのある評議員等が中心となって検討し、すみやかに対応に当たります。

- ・支援の内容によっては、さらに多くの会員の支援が必要となります。そのような場合には、事務局・評議員等が窓口となって支援のお願いをいたします。ご協力をお願いいたします。

(3) 支援のお知らせ

- ・被災された方は、このホームページが見られない可能性もあります。日本藻類学会会員の皆さまにおかれましては、お知り合いの被災された会員にこのような支援の枠組みがあることを是非ともお知らせください。

支援には短期的なものと長期的なものが考えられます。日本藻類学会ではそのいずれにも対応していきたいと考えております。

【考えられる支援の内容】

- ・研究室の一時的なスペース貸し出し
- ・被災した学生の一時的預かりと（必要ならば）指導
- ・培養株等の一時的預かり
- ・消失した文献等の補填（学会誌の場合には日本藻類学会のバックナンバーで対応できる可能性があります）など

日本藻類学会

会長 堀口健雄